



社会福祉法人福岡市社会福祉協議会  
**城南区社協事務所 (城南区社会福祉協議会)**  
 福岡市城南区鳥飼5-2-25 城南区役所別館 1階  
 TEL:092-832-6427 FAX:092-832-6428  
 Eメール:jounanku@fukuoka-shakyo.or.jp

福岡市社会福祉協議会  
 マスコットキャラクター  
 こっこ

## 鳥飼校区 福祉のまちづくりプランができました

住民が地域課題やその解決策を主体的に話し合い、自ら目標を定め今後の活動の目標等を見える化し、実践につなげるひとつの方法として「校区福祉のまちづくりプラン」作成があります。

城南区では、これまで7校区がプランを作成し、プランを活用した取組みを進めています。令和5年度は、新たに鳥飼校区が「鳥飼校区福祉のまちづくりプラン」を作成しましたので紹介します。

### プラン1 担い手の確保

地域活動の担い手の高齢化が進み、新たな担い手が見つからない等の課題を抱えています。これまでも各種団体等と協力しながら進めてきましたが、今後は若い世代との交流や、多くの住民が参加できるような活動を通して担い手の確保に向けた取組みをさらに進めていきます。

### プラン2 ふれあいネットワーク

鳥飼校区社協では、年に2回のふれあいネットワーク全体会議と、班別会議を1~2回行なっています。会議では、活動状況の報告や、気になる世帯についての情報共有、研修などを行ない、見守り活動の充実を図っています。今後は研修等を通して、ふれあいネットワーク全体で、孤立防止や認知症への理解を深めていきたいと思います。



▲会議の様子

### プラン3 居場所づくり

令和5年12月に、校区内にこども食堂「ふくおかこども食堂」ができました。「ふくおかこども食堂」は一般社団法人が運営しており、子どもの居場所をつくる新たな担い手として活躍しています。

自治協議会、校区社協、小中学校、公民館が校区内の周知等で協力しています。



▲こども食堂の様子

**鳥飼校区福祉のまちづくりプラン**

～広げよう人に優しいまちづくり～  
**生活して良かったと思える「とりかい」に**

住みやすい校区をつくるために  
 次の3つの活動を重点的に取り組んでまいります。

**プラン1** “地域活動の担い手”を増やして、とりかいはまちづくりをみんなの手にしましょう

→校区各町内の隣居者が一円に会い、まちづくりの取り組み方を情報交換形式で情報交換と共有を進め、地域活動の担い手を増やしていきます。

**プラン2** ふれあいネットワークの輪を広げましょう

→安心して生活するために、町内のふれあいネットワーク活動を自治会を始め各種団体が連携し、推進を支援していきます。

「ふれあいネットワーク」は…高齢者や障がいのある人など孤立になる人を援助や声かけ、見守り活動です。

**プラン3** 見守りを兼ねた居場所づくりを進めましょう

→「ふれあいサロン」や「カフェ」子どもサロンなどの居場所を増やしていきます。  
 「ふれあいサロン」…高齢者や障がい者など高齢者や障がい者が参加しやすいサロンや「カフェ」……全県的な活動など活動の場を設け、若い世代の住民が参加・交流する「居場所」です。  
 「子どもサロン」…子育て中の子育て世代が親同士の仲間と交流できる居場所です。

鳥飼校区社会福祉協議会・鳥飼校区自治協議会・鳥飼校区民生委員児童委員協議会  
 令和5年3月発行

### 石飛会長(鳥飼校区社協)コメント



鳥飼校区では、校区社協、自治協議会、民生委員・児童委員協議会とともに令和5年3月に福祉のまちづくりプランを作成しました。このプランは、令和6年3月発行の校区社会福祉協議会だよりに掲載し全戸に周知しています。

近年は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の活動ができず残念な思いもりましたが、今後も「広げよう人に優しいまちづくり」をスローガンに、安心して健やかに暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。

堤丘校区

# 校区インタビューを実施しました!

## ～保育を学ぶ学生が子育てサロンに参加～

令和5年12月18日に、堤丘校区社協の水地スエ子会長が代表を務める子育てサロン「すこやか広場」のクリスマス会に、中村学園大学の学生4名が参加しました。当日は、学生が企画をした「親子でできるサーキット遊び」が行なわれ、参加した親子やボランティアからは「初めて見るゲームで新鮮で良い」「楽しかった」との声が聞かれました。

また、サロン終了後には、水地会長が学生からのインタビューに答えながら、地域福祉活動を始めたきっかけや、やりがい等について語られました。



▲様々な遊具を並べ周回するサーキット遊び

### 学生からの感想(一部抜粋)

- ・子育てサロンは、子ども同士の交流だけではなく、保護者同士が情報交換や交流する場となっていることを学ぶことができました。将来、自分がこのような場に参加する際は、保護者同士の会話が活発にできるような関わりをしたいと思います。
- ・子育てサロンでの遊びを企画する際に、幅広い年齢の子どもが親子で遊べるものを考えることが難しいと感じました。しかし、子どもたちや保護者の方が夢中になってサーキット遊びをしてくれて、企画をしてよかったなと思いました。



▲水地会長へのインタビューの様子

片江校区

# 孤立死防止のために、今私達にできること

## ～ふれあいネットワーク校区会議～

片江校区社協では、高齢者等の見守り活動を行っている自治会長、民生委員・児童委員、地域ボランティアを対象に、見守り活動に関する知識をみんなで共有する勉強会を年に1回実施しています。

令和6年2月4日に行なったふれあいネットワーク校区会議では、「孤立死防止のために、今私達にできること」をテーマに、孤立防止センターの速水靖夫氏が講演されました。

講演では、速水氏より地域で困りごとや生活のしづらさを抱えた人たちが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、早期に問題を発見し、支援につなげる見守り活動や高齢者等の居場所づくりがとても重要な役割を担っていること等について、お話しいただきました。

また、見守り活動の手順とポイントについて、「見守りに必要な3つの心」と「誰もが孤立しないためのポイント」を分かりやすく簡潔に説明いただきました。

参加者からは「人との関わりが大切だと知ることができた」「講師の体験談が分かりやすかった」等の声が聞かれ、地域住民のつながりが重要であることを改めて認識する貴重な機会となりました。



▲事例を交えて、話をされる速水氏

### ここがポイント!!

#### ●見守りに必要な3つの心

- ①目配り：周囲に目を向ける心
- ②気配り：相手のことを考える心
- ③心配り：いつでも手を差し延べる心

#### ●誰もが孤立しないためのポイント

- ①一人で抱え込まない
- ②困ったときは、いつでも相談できる友人・知人をつくる
- ③地域・近隣と交流する
- ④地域の行事など積極的に参加し、人との関わりを増やす